



果樹特報 No.7

令和4年 7/14号
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

今回の内容：8月上旬

◎品種全般的に、「胴サビ」が散見されます。また、果形や肥大などの品質のバラつきが大きい状況です。
◎昨年と同様にサビ果の集荷販売対策を進めてまいります。着果量の確保を優先し、サビ果の樹上選別が可能な場合は、なるべくサビの程度が軽く肥大の良い果実を残して下さい。

【特別散布】

- シンクイムシ対策：8月中旬にバリアード顆粒水和剤2,000倍（前日、3回）を特別散布する。
- ハダニ対策：8月中旬にアカリタッチ乳剤1,000倍（前日、-）を特別散布する。ただし、展着剤は加用しない。

【8月上 定期散布】

【第10回】7月末～8月上旬 定期散布

*目安：前回から15日以内

散布時期：7月30日～8月5日

散布薬剤：水

100%

展着剤

10ml 【代替】ササラ2,000倍を使用してもよい

コロマイト乳剤

100ml（前日、1回）

エクシレルSE

20ml（前日、3回）

ダイパワー水和剤

100g（前日、3回）

散布日： 月 日
散布量： リットル

散布量：10a当り 600%

対象病害虫：輪紋病、炭そ病、褐斑病、斑点落葉病

ハダニ類、シンクイムシ類、キンモンホソガ

注意事項

①ハダニ類が散見される場合は、通常展着剤に代えて機能性展着剤「スカッシュ」1,000倍を加用する

●シナノリップの収穫前管理について

● 収穫予想：中野市 8月12日頃 *満開後105日 収穫は必ず3回以上分けて行う

●着色管理

日焼けに注意して行う。葉摘みは2回に分けて行う。

1回目：7月中旬頃 曇り、最高気温30℃程度の日を狙って行う。葉は1果2枚を限度とし、摘みすぎない。

2回目：収穫10日前程度

●心かび果の除去

7月中旬頃から、早期に地色が抜けてきて縞状に着色してきている果実があります。

心かび果である可能性が非常に高いですので、早期に着色している果実については除去してください。

また除去の際は一度中を割り、心かび果なのかの確認してください。



●心かび果の判断ポイント

- ①異常に早く着色した果実
- ②地色の抜けが異常に早い果実
- ③収穫期に近づくほど、着色が進み、心かび果かどうかの判断が難しくなります。

まずは、割ってみて、心かび果かどうかを確認して下さい。

極力、心かび果は除去するよう努めて下さい。 問合せ：23-3933

裏面もご覧ください（つがる落果防止剤、着色管理）

つがる等の落果防止剤の散布について

- ① 対象品種：つがる
- ② 使用薬剤：ストップール液剤
- ③ 散布時期：収穫開始予定の15日前に1回散布
- ④ **使用倍率：1,500倍 ⇒ 水100ℓに66ml・展着剤は加用しない**
- ⑤ 散布量：500～600ℓ/10a
- 目安：8/5～10頃
- 収穫前規制のため、収穫開始は散布後7日間経過後とする
- ◆ 注意事項
 - ① 展着剤は加用しない。
 - ② 単用散布を厳守する ⇒ 他剤との混用は絶対にしない。
 - ③ **乾燥条件下では効果が低減するので、定期的なかん水を行い、園地内の湿度を上げる等の対策を図る。**
 - ④ 他品目、特に野菜等に飛散しないように注意する ⇒ 生育障害・葉害発生の恐れあり
 - ⑤ シナノリップに飛散すると果肉軟化が早まり、着色や食味、日持ち性が劣るため散布の際は注意する。
 - ⑥ 落果防止剤を散布すると熟度が早まり、果肉軟化を助長しやすいので、過熟果発生に注意して収穫を進める。

早生種の着色管理について

- ① 日焼け果防止対策：果実温の高い日中に作業を行い、早朝や夕方、果実温の低い時間帯には行わない。
- ② 徒長枝切りや枝つり、支柱立てを早めに行い樹冠内部への光の導入を図る。
- ③ 葉摘み：収穫の7日前位（8/20前後）から始める ⇒ 日焼けを助長するため、あまり早期に実施しない
 - 1回目：日焼けに注意しながら、果実に密着している果そう葉を中心とした軽い葉摘みを行う。
 - 2回目：着色の様子を見ながら玉回しと合わせて実施する。（収穫直前頃）
- ④ 一度に強い葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意する。
- ⑤ 玉回し：果実が30%程度着色したら1回目を実施 ⇒ その後に収穫直前頃の葉摘みと併せて2回目を実施する。
- ⑥ 直射日光の当たる部分の葉摘み、玉回しは実施しない。

【収穫時の注意】

- ① 着色のみではなく尻部の地色の抜け具合も注意する。つがるの収穫は高温時であるため、過熟果の発生がないよう熟度を考慮しながら行う ⇒ 着色ではなく鮮度重視とする
- ② 同一の樹のなかでも果実により熟度の差があるので、数回に分けて収穫する。
- ③ 鮮度保持対策：日中の高温時の収穫は出来るだけ避ける。収穫した果実は日陰などの涼しい場所に保管する。

【灌水・土壌管理】

- ① 高温・干ばつにより土壌水分の蒸散が激しい場合は灌水を行い、園地内湿度を一定に保つ。尚、雨が5日以上ない場合は、1回のかん水量を20～35mm目安に実施する。
- ② 水分不足は果実肥大に影響し、水分ストレスはつる割れ果等の発生を助長する恐れがあるので注意する。

着色資材の使用例

- 対象：つがる他
- 下記資材は全て定期散布に混用可能です。選択により使用してください。詳しくは担当技術員までお問い合わせください。

商品名	使用目的	倍率	使用時期	500ℓ当り 薬剤費	定期散布 農薬混用
彩色甘味 (おすすめ!) @3,015円/500g	着色促進 糖度向上	1,000	7月下旬・8月上旬 (収穫予定30日前と15日前の2回連続散布が効果的)	3,015円	可
モーニング エース @4,400円/500ml	着色促進 品質向上	500	7月下旬・8月上旬 (収穫予定30日前と15日前の2回連続散布が効果的)	8,800円	可

果樹特報 No8 発行予定：8月1日頃
◆ 8月中下旬の散布